



富沢さんの里芋



技術力を持つベテラン農家の富沢さんでも「今まで経験がしたことが無い」というほどの病気です。



葉に広がる病気で、光合成に必要な葉を失うと実が肥大せず、収量を減らす原因となります。



幸い、里芋そのものには影響が無いので通常出荷が来ていますが、来年の事を考えると心配です。

★今までに経験したことが無いほどの病気
収穫の秋になり、里芋の出荷が始まりました。毎年、品評会で賞を取るほどの技術力を誇る富沢さんは、「あの品質はそうは簡単には出せないよ」と他のメンバーも一目置くほど。中耕も兼ねた土寄せ、追肥、水撒きなどを抜かり無く行う事で高品質の里芋を作ります。また、何より良い里芋を作るためには良い親芋が必要。富沢さんは地元で初めて里芋の種芋が入ってきた翌年から種芋を採り続けてきました。それから31年もの間、自分の畑で育てた里芋から良い種芋を選抜し続けてきたため、この地域の気候にあった、そして富沢さんの畑の土にあった里芋が育つようになってきました。

ところが、そんな富沢さんの里芋の葉っぱに病斑が出る病気が発生しました。近年、西日本で疫病が広がっているのですが、実は一昨年ぐらいから千葉県でも広がり始め、おかげさま農場の里芋部会のメンバーの里芋にも被害が出ていました。富沢さんの畑では昨年は出ていなかったのですが、風雨で菌が運ばれ台風や長雨の後に発生する事が多い病気らしく、今年はずいぶん富沢さんの畑にも広がってしまいました。

「こんな病気が広がったのは、今までの農家人生で経験したことが無いな」と、さすがの富沢さんでも困惑気味。他のメンバーも「こんなのは初めてだよな。何なんだろう？」と困惑しています。10年以上寝かした完熟堆肥を使い、土中の菌のバランスを整えているが故に農薬を使わなくても病気が広がらなかった畑ですが、ここまで地域全体に広がってしまっていると、どうにも出来ません。今年とはもかく来年さらに広がらないか心配です。

【産地情報】

◎里芋は10月に入るといったん途切れます。人参は今のところ10月まで持ちそうです。

◎新さつま芋、長ネギは10月から出荷開始予定です。